

ぽっかぽか きりん



「立秋を過ぎても、なお残る暑さ」が「残暑」ですが、8月下旬でも35℃越えの「猛暑日」。
真夏の様な厳しい日々が続きました。暑さは疲れを抜けにくくし、夏の疲れが今後出ることもあるか
と思います。体調の変化にお気をつけください。

先月のプール活動では、水に「潜る」と「浮く」を目指して頑張る姿が見られました。目標に向かって
頑張る友達を応援するなど、「個」から「仲間」へと意識がより強くなってきているのを感じています。

一方で、猛暑の影響で、戸外で遊ぶ機会がとても減ってしまいました。身体を動かす機会や時間が減
り、体力の低下が心配です。秋は「遠足」に「運動会」と大きな行事もあります。少しずつ体力を付け
て、健康に楽しく行事に参加できるようにしていきたいと思っています。

『記憶』の定着

先月は、戸外活動ができない分、室内遊びの時間が増えました。室内で遊べる時間が多くあることで、
夏のお出掛けや旅行の楽しかった思い出を再現しようと「再現あそび」が盛り上がりました。

『再現あそび』とは、自分の経験したことや想像したことを自分達なりに再現して遊ぶことです。
2歳児クラスぐらいから「お医者さん」や「おままごと」など簡単な再現遊びを楽しむようになります。
年中になると友達とイメージを共有し、協力して制作したり役になりきり、楽しむようになります。
例えば、お休み中に、「お寿司屋さんにいった」「電車に乗った」「髪を切った」などの体験を言葉で友達に
伝えることで、イメージを共有して必要な物を考え、工夫して作ります。
再現あそびを通して、想像力、創造力、コミュニケーション能力、社会性、言語能力など様々な力が養わ
れます。その中で、今回は「記憶力」について書かせて頂きます。

面談をさせて頂いた中で、「保育園の話をもっと覚えていない」というお話が何件もありました。

「記憶」がそもそも定着するためには何が必要か。以下のプロセスが必要になります。
情報を脳に入れる「インプット」→情報を「保持」→保存された情報を「想起」して思い出す。繰り返し思
い出すことで記憶が定着されます。
再現遊びでアウトプットしようとすることで、記憶を想起し、より記憶が定着しやすくなります。また楽し
かった思い出や体験したことは、感情が動くため記憶が保持されやすいと言われています。
このエピソード記憶や記憶の言語化を繰り返すことで、「長期記憶」が発達していきます。ストーリーを順
番通りに語れるようになったり、短い物語なら暗唱できるようになり、就学までに「学習的な記憶」へと
発達していきます。今は、想起を繰り返す大切な時期。言語化できなくても記憶を思い出すきっかけは、
「記憶力」の練習になります。ぜひお家でも「記憶の言語化」を意識してお話を楽しんでみて下さい。

お知らせ

9月27日（土）は、保護者会になります。
詳細については後日掲示いたしますので、よろしくお願い致します。